琉球大学学術リポジトリ

# 写真や図を中心にみる琉球の農作物主要病害虫 (18)


| メタデータ | 言語:<br>出版者: 琉球大学農家政学部<br>公開日: 2011-07-04<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 田盛, 正雄, Tamori, Masao<br>メールアドレス:<br>所属: |
| --- | --- |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/20942 |

写真や図を中心にみる

# 琉球の農作物主要病害虫 ⑱

都合によって，二カ年間中止していましたこの記事を，ふたたび続けさせていただきます。なお，紙面の都合上，不規則になることをご了承下さい。

## 病　害

### インゲンマメの白絹病

宿主：１６０種類あまりの植物をおかし，作物では，とくにスイカ，キウリ，カボチャ，マクワウリ，トマト，サツマイモ，ジャガイモ，ダイコン，タマナ，インゲンマメ，ダイズ，ナスなどがおかされやすい。

発生：夏から秋にかけて多く発生する。

病徴：普通，地際の茎に発生する。被害部は，はじめ白色，絹糸状の菌糸でおおわれ，のちその上にナタネ種子大の濃い茶色の菌核を生ずる。病はん部は，ただれて乾腐し，茎葉は，しおれて枯れる。

病菌：この病菌は，濃い茶色の菌核をつくり，その上には，まれに担胞子をつくる。菌核の大きさは0.8～2.3 ミリメートルで，内部は白色。この病菌の発育の最適温度は，３２～３３℃，最高温度は３８℃，最低温度は１３℃。菌核は，室内では１０カ年，野外では5～６カ年生存することができるといわれている。

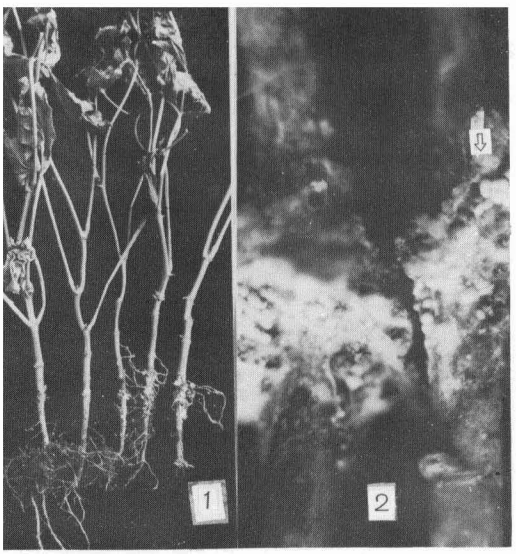
防除：

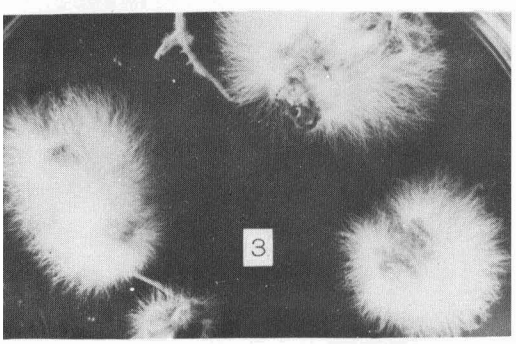
1．病株は，菌核ができる前に除いて焼却し，そのあと及び附近の地面に昇汞または水銀製剤の1,000倍液を散布する。

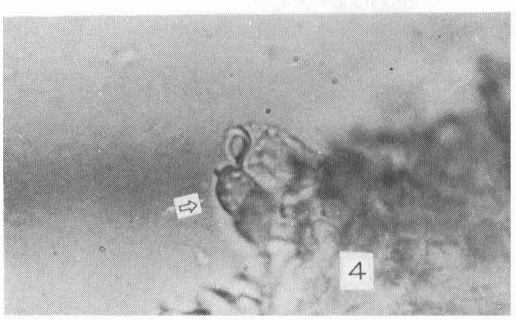
1．発病しはじめたら，ウスプルンの８００倍液を病斑部に散布すると効果がある。（葉にかけないこと）。

1．セレサン石灰，ルベロン石灰，リオゲンダストなどを１０アールあたり3～4kg散布する。

1．小面積の畑では，植付3週間前にクロルピクリンで土壌を消毒して植付けるとよい。　（田盛正雄）




写　真　説　明

1図・白絹病におかされたインゲンマメの病株

2図・地際部の茎の上にできた菌核

3図・病斑の切片から出た菌糸体

4図・担子器と担子胞子を，１００倍の顕微鏡で写す